

# 出張講義

医療・  
福祉

## 小便と大便とどちらが生命にとって重要か (高校生のための医学入門)

担当教員:岡本 悦司 教授

高齢化で増加する疾患の予防対策がなぜ若い頃から必要なのか？それがなぜ国策として推進されているのか？を、小便と大便という日常的な、しかし汚い話なので関心を引きにくい生理現象を例に、わかりやすく説明する。

生物では、尿がどのように生成されるか、が教えられている。では尿が生成されなくなったらどうなるのか？糖尿病はがんのような悪性疾患ではないが、放置すると尿が出なくなる、というメカニズムを生物の知識の応用として説明する。

現代社会では、人口高齢化と社会保障が教えられるが、尿が出なくなったら透析治療となり年間500万円もの費用がかかること、その費用は全国民で負担しなければならない、という医療保険の仕組みを社会保障の各論として説明し、若い頃からの疾患予防が個人のみならびに国全体の社会保障制度に必要であるという背景を説明する。

- 受講人数の目安:40人(生物、現代社会履修者が望ましい)
- 所要時間の目安:60分
- 高校でご準備いただきたいもの:プロジェクター、スクリーン(PCは持参)